

エジプト・アラブ共和国 就学前教育の現状と課題 ー JICA 技術協力プロジェクトインターン経験からー Current Situation and Issues of ECD Education in EGYPT

川村 幹
Miki KAWAMURA

鳴門教育大学
Naruto University of Education

要旨

エジプトで行われている「就学前教育の質向上のための技術協力プロジェクト」では「遊びを通した学び」の技術移転を取り組みの一つとしている。このプロジェクトではエジプトの教育全般の質向上のために日本とエジプトの政府間で結ばれたパートナーシップに基づくものである。エジプトの人口増加にともなう就学前教育への就学率の低さ、質の低下、システムの見直しなどが行政を中心になされ日本との協力で「遊びを通した学び」を取り入れていく方向で動いている。一方、学歴社会であるエジプトでは、就学前教育に望むものは小学校進学の前準備期間として文字や数字を授業形式で学ぶことである。新しい教育手法が導入されたとき、生活文化や社会的な背景を考慮して実施することは重要である。現在エジプトでは Quality Standards for Nurseries という指針に沿って保育を行えるよう取り組んでいる。現場の保育士はプロジェクトとの関わりの中で、保育の中に遊びを取り入れることについて、子どもの様子の変化から、その意義を感じ取っているようである。

キーワード：エジプト、就学前教育、遊びを通した学び、JICA 技術協力プロジェクト

1. はじめに

エジプトと日本のパートナーシップに基づき、幼児教育の技術協力プロジェクトが2017年6月から2020年10月の期間で実施されている。

プロジェクトではエジプトの保育・幼児教育の質向上を目指し「遊びを通した学び」を現地の保育園に広める技術協力を行っている。

筆者は当プロジェクトへ2019年9月5日から10月2日までインターンとして参加した。その中から知り得たエジプトの保育・幼児教育の現状とプロジェクトの現状、教員たちの反応についてまとめていく。

2. エジプトの就学前教育の現状と課題

エジプトはアフリカ北部に位置するアラブ国家であ

り、人口約1億人であるとされている。人口増加率は2.0%で、人口ピラミッドもきれいな三角形である。

子どもたちは0歳から4歳までは福祉を担当する社会連帯省が管轄である保育園に、4歳から6歳は教育省が管轄である幼稚園に通うことになる。

0歳から4歳児の中の約733,899人の子どもが保育園に通っており、在園率は7.4%となっている。

保育園はNGOが運営しているものと、私立のもの、工場や企業付きのものがある。保育園の数は毎年増え続けており、2015年の時点でNGOの保育園は11,901園、行政から支援を受けているNGOの保育園は4,847園、私立保育園6,954園、工場・企業等の保育園100園となっている。(JICA事業事前評価表)

保育士になるには特に資格は必要なく、どのような分野を大学で学んでいても、さらには大学を卒業していなくても、保育士になることができる。

そのエジプトの中で現在問題となっているのは急激な人口増加に伴う就園率の低さ、保育園の急激な増加や十分な知識を得ていない保育士が実施することによる、保育の質の低さが指摘されている。

エジプトの社会連帯省は上記に加え、保育園に関する問題を①就学前教育における認知能力・運動能力・社会性・情緒発達の重要性への理解不足、②保育園における保育方針・カリキュラムの理解、専門的な保育実践を包括的に支えるシステムの未整備、③保育サービスの提供・モニタリングを担う専門的な枠組みの不足とまとめている。

3. エジプトの就学前教育に関する教育政策

エジプトの社会連帯省は就学前教育の問題を受け止め、15億4千万円を投じる保育ナショナルプログラムの実施、エジプトの保育園42%を対象としたプログラムを実施している。

プログラムの内容は①保育の質と効率を上げる専門的な訓練、②既存のNGO保育園の改善、③新しい保育園設立の拡大、④統治、調整そして擁護の4つである。

保育の質と効率を上げる専門的な訓練では、日本という保育所保育指針にあたるQuality standards for Nurseriesを国際基準に合わせて設計すること、この指針が適合することができるような現場づくり、モデル園の設置、社会連帯省によるモデル園の更新、社会連帯省のカリキュラム構成や効果的なモニタリング能力の向上という部分に取り組んでいる。

既存のNGO保育園の改善では物理的環境と設備、専門的な活動の実施と能力構築、保護者の前向きな育児と子どもの福祉への気づきの向上、障害児の包容をNGO運営500園で実施することに取り組んでいる。

新しい保育園の設立の拡大は登録園を1000園増やすこと、私立保育園の設立、Home nurseries（日本で家庭的保育事業にあたるもの）の実施を目指している。

就学前教育に関する問題を解決するため、ECDと問題解決に関与する省庁と民間機関間の調整のための高官級委員会の設立、各省庁と、民間機関などの技術協力パートナーを調整すること、幼児期の重要性に関する世論や保護者の認識の向上、女性の社会進出のための環境整備に関する取り組みを行っていくなど、行政側からの取り組みも就学前教育の改善に目を向けていることがわかる。

4. エジプトの保育園の指針 Quality standards for Nurseries

エジプトでは国内で保育者養成コースを有するカイロ大学と共同でQuality standardという保育所保育指

針にあたる指針を出している。Quality Standards for Nurseriesは以下6つのFieldで構成されている。

No	分野名
Field 1	Quality of Physical Environment
Field 2	Caregivers
Field 3	Social/Psychological/Health Care Programs
Field 4	Learning, Development and Growth Output
Field 5	Community Engagement
Field 6	Effective Management

この中でも特に保育の実施に関わるのがField 4のLearning, Development and Growth Outputである。これは社会連帯省作成の“Fourth Axis: Learning outcomes, growth and development”に記される6つのstandard skillの軸を策定し、それに沿って保育を行うことになっている。その6項目の内容は以下のとおりである。

No	項目名（日本語要約）
1	Child's acquisition of language skills（言語スキル）
2	Child's acquisition of self-care skills（自己管理スキル）
3	Child's acquisition of social skills（社会的スキル）
4	Child's acquisition of arts performance skills（芸術的スキル）
5	Child's acquisition of cognitive skills(learning outcomes)（認知的スキル）
6	Child's acquisition of cognitive skills (learning)

それぞれの項目に関する詳細は以下の通りである。

「言語スキル」の内容の中には、ジェスチャーや繰り返し、模倣すること、周りの環境のもの名前を知ること、単数と複数の区別、5分間話を聞く、友達のフルネームを覚える、出来事を順序立てて伝える、質問する、正しく発音する、イントネーションに注意する、音を区別する、感情を言葉で表現する、絵の内容を簡単な言葉で表現する、聞いたことを詳しく話す(暗唱する)などが盛り込まれている。

「自己管理スキル」の中には、年齢ごとによって個人のルーティーンを自分自身で実行すること、年齢ごとの健康的な習慣を身に着けることが内容として組み込まれている。

「社会的スキル」は、その名前からも一見、社会情緒的スキルとのつながりが多いように捉えられるが、その内容は、公私の区別をすること、権利と義務の区別、挨拶や、許可、謝罪に関する取り扱いを出来るようにすること、社会的なイベント（誕生日や母の日、その他祝日など）を知る、社会倫理を学ぶ、様々な分

野の職業を知る，地域や国の習慣を知る，人間関係を学ぶ，友達と仲良くする，他者を受け入れる，グループゲームに取り組むなど，主に社会や人間関係や態度に関するものである。

「芸術的スキル」は，主に子どもの芸術的パフォーマンスに触れられている。製作に使う道具や材料を使えるようになる，色を判別する，歌や賛歌を歌うことが出来る，クリックやタッピングなどのリズム遊びのまねができる，年齢に合わせて自由に歌や描画，製作などから自己表現ができるなどが主な内容である。

「認知的スキル」には，数の数え方，幾何学的形の違いを知る，規模や距離，形などを判別する，サイズ，形，色でカテゴリに分けることが出来る，様々な図形の判別が出来る，論理的に形をアレンジすることが出来る，簡単なビジュアルパターンをまねすることが出来るなど，その後の小学校での学習に直結する内容が含まれている。

「運動的スキル」には，階段の上り下り，ジャンプ力，目と手の整合，自由遊びの練習，リズム運動のエクササイズ，鳥や動物の動きの真似ができるなどである。

5. JICA ボランティアの報告書から見る保育園の現状

エジプトには JICA ボランティアが 1998 年より約 70 名幼児教育分野で派遣されている。隊員たちの報告書から，エジプト保育の現状を読み取ることができる。

- ・先生たちはとにかく座っていなさいと子どもたちに言い，子ども同士がけんかをする時，手や頭を叩いたり，棒で音を鳴らしたり，叩く真似をする（西村 2008）
- ・学習の時間には保育士は子どもたちを座らせ，新聞を読んだり携帯を見たり，ほかの保育士と世間話をする姿も見られる。子どもたちに与えられる玩具はブロックが多く，子どもの人数とブロックの数が合わなく，子ども同士取り合いのけんかが始まることもあるようだ。教員はその様子を椅子に座ったまま見守ることが多い。（持田 2005）
- ・保育士とダーダ（子どものお世話係）の役割がはっきり区別されている。保育士は子どもをみたり，授業をする。ダーダは子どもの食事，排せつ，掃除など生活面での援助を行う。（木村 2010）
- ・体罰をもって子どもを動かす場面が多い。遊びを取り入れようにも，力をもって押さえつけられている子どもたちはいつも欲求不満であるように感じられ，情緒も安定せず，椅子に座ること，話を聴くことさえ難しい。あたらしく職員が入ってきてても子どもの姿に圧倒され，あつという間にやめてしまう人もい

る。（3 か月で 6 人が辞めた）（河野 2010）

- ・保育環境の悪さが保育士のモチベーションを低下させている。「お金がないから何も買えないし，何も良い保育ができない」と言う。（鈴木 2008）

上記のような隊員の報告書の言葉から，保育園の環境の悪さ，保育士のモチベーションの低さ，専門知識を有しない保育士の保育技術の質の低さがうかがわれる。また，社会的背景として，学歴重視社会があげられるエジプトでは近年の高い離職率を受けて，早い段階から教育に力を入れようとする考え方が強く，保育園・幼稚園の活動は小学校の準備期間であるという考えのもと，暗記主義的な教育が低年齢化し，就学前教育でそれが行われるに至ったのではないだろうか。

6. JICA 就学前教育技術協力プロジェクト

「エジプト・日本教育パートナーシップ」は 2016 年 2 月 28 日から 3 月 2 日にかけてエジプトの大統領アブドゥルフッターハ・エルシーシ氏の日本公式訪問の際に安倍首相と発表したのが「エジプト・日本教育パートナーシップ (EJEP)」である。これはテロリズム，過激主義との闘いと平和・安定・発展及び繁栄の促進に対する両国の取り組みの重要な柱として，エジプトの若者の能力強化を目的とした教育に関する共同パートナーシップである。このパートナーシップでは以下の 12 の分野に焦点を当てている。

- ① 日本に派遣されるエジプト人留学生・研修生数の拡大
- ② エジプトでの日本式教育の導入
- ③ エジプトにおける「特活」の推進
- ④ 日本式教育を適用するモデル校
- ⑤ 教員・指導者の能力向上
- ⑥ 学校運営及び学校における教育活動の改善
- ⑦ エジプトにおける体育科目及び音楽科目の推進
- ⑧ 保育園及び幼稚園における「遊びを通じた学び」の推進
- ⑨ 技術教育分野における協力
- ⑩ エジプト政府による教育分野の政策目標と策定
- ⑪ E - JUST の推進
- ⑫ エジプト・日本教育パートナーシップ (EJEP) に関する運営委員会

なお，E - JUST とはエジプト日本科学技術大学のことによって 2009 年に締結された二国間協定によって設立されたものである。

JICA ではこの「エジプト・日本教育パートナーシップ (EJEP)」に基づきエジプトの若者の能力を強化し，エジプトの平和，発展及び発展の促進に質することを

目的として、就学前教育から、基礎教育、技術教育、高等教育に至るまで、日本の教育の特徴を生かした包括的な支援を行っている。

上記12分野のうち、今回のインターンシップに関連するこれまでの活動をみる。⑧保育園及び幼稚園における「遊びを通した学び」の推進については、1998年から20年間継続して派遣されてきたJICAボランティアがエジプトで幼児教育隊員として活動しており、その経験とノウハウを積み重ねている。子どものより良い成長のための実践の全国的な普及を加速させることをその内容としている。また⑤教員・指導者の能力向上に関しては、教育を個人の人格形成を目指すものとして、教員と生徒の人間的な交流の中で実現されるために、教員・指導者の能力向上を図るものとし、本邦研修を行ってきた。

「エジプト・日本教育パートナーシップ (EJEP)」に関連する幼児教育の分野では、上記1998年以降のJICAボランティアによる活動の蓄積を生かして、保育園に対し、「遊びを通した学び」を普及するべく「就学前教育と保育の質向上プロジェクト」を2017年6月から実施中である。本プロジェクトはJICAとしても初の就学前教育分野の技術協力プロジェクトである。

本プロジェクトは上記のパートナーシップ (EJEP)のもと、エジプトの社会連帯省と共同し保育園における保育の質の向上を目指している。内容としては①保育士の遊びを通した学びの実施能力開発、②保育園の質を維持するためのモニタリングシステムの改善、③遊びを通した学びを実施する環境の改善の3つを柱としてプロジェクトは進んでいる。プロジェクト対象地域はポートサイド、イスマイリア、スエズ、カリオバイヤ、カフルエルシェイクの5地域で各地域10ずつパイロット園を設定している。

これまでに主に、コーナー遊び、砂遊び、絵本コーナーを各園で取り入れ、遊びの環境を整備するとともに、保育者向けの研修では日本の保育士養成校のカリキュラムを参考にデザインされた全20科目の講義を行った。全講義を受け終わった保育士にはエジプト社会連帯省社会支局長から保育者研修修了証明書が授与されている。

7. 保育現場での実践

就学前教育は生活文化と近く、エジプトの生活文化の影響を直接受けている部分が多くみられる。これは日本からの「遊びを通した学び」を伝える際に、課題となる。例えば、子どもの栄養に関する講義では、エジプトでは学校現場において、日本に相当する昼食の

時間がなく、授業と授業の合間に、スナック菓子で済ませるといった場面が存在する。これは、幼児教育の場面でも、時間を決めずにいわゆる「ながら食べ」として保育園での生活時間の中に存在した。そのような食の習慣を改善すること、食べ物の内容もスナック菓子ではなく、栄養バランスを考慮した食べ物を摂取するよう講義に取り入れている。

別の問題は生活リズムである。国民の多くがイスラム教徒であるエジプトでは、特に断食の時期には日中は活動をせず、日が沈んでから活発に活動する。そのため、全体的に生活リズムが夜側にずれ午後11時を過ぎても家の前で2歳くらいの子どもの兄弟や近所の子どもたちと遊んでいても、不思議な光景ではない。一方でプロジェクトでは、健康に関して生活リズムや睡眠、食事について触れている。これは、エジプトの生活文化に深くかかわってくることであり、エジプトで「遊びを通した学び」を伝えるうえでの課題の一つになり得るといえるだろう。

また、保育園で遊びを実践するうえで欠かせないのが保護者の理解である。エジプトの学歴社会を背景として保育園でも子どもたちに文字の読み書きを学んでほしいという保護者のニーズは多い。その中で遊びがどのように理解され、実践し、発信していくのか、そのカギを握るのも保育士であると考えられる。

8. 「遊び」の捉え方と受容

プロジェクトでの取り組みは保育園で実際にどのように実践されているのか。インターン期間中は夏休みであったため、実際の保育園の活動や子どもと保育士の関わりをみることはできなかった。ただ保育士からは「プロジェクトは新しい保育の手法を知ることができて面白い」「(遊びを取り入れることで)子どもたちの姿が変わり、保育園の登園時に泣いていた子が、笑顔で登園するようになった」など、遊びを取り入れたことによる子どもの様子の変化についての感想が多く聞かれた。「遊び」がもたらす影響が子どもの態度の変化として現れ、保育士に気づきを与えているのではないかと推察する。

遊びの受容に関してプロジェクトでの取り組みによって取り入れ始めた遊びの例は以下の通りである。エジプトにおいてあまり取り入れられてこなかった砂場遊びは、当初は砂で汚れることを嫌った保育士や保護者であったが、プロジェクト専門家による導入や説明により、そのねらいや学び、カリキュラムとの繋がりを理解しエジプト社会連帯省や保育園とJICAプロジェクトの双方の予算を使って全モデル園に砂場を設置することに至った。このことから、取り組みに対

する十分な知識と理解，期待できる利益の共有，実施後のフォローアップを通じて砂遊びを各園で取り入れていれ，現場の保育士のみならず，保護者や省庁関係者との共通理解が必要不可欠であることに加え，子どもたちの変化に気づける成功体験が重要になるということがわかる事例であった。ただ，実際の保育現場を見ているわけではないため，今後の調査では実際の現場でどのように遊びが実践されているのかを調査したい。

9. おわりに

学歴社会のエジプトが，就学前教育において，暗記型教育を実施してきたことは，諸国に見られる形である。日本でも明治20年代に急激に幼児教育施設が増えたときには，学歴によって地位上昇を図ろうとする保護者が特に都市中間層に多数存在し，彼らのニーズに応えるように，暗記型教育を実施する幼児施設が存在していた。（白石2013）

今回のプロジェクトを通して，エジプトに「遊びを通した学び」が導入された。導入するにあたり，エジプトの社会的背景との関わりを差し引いて考えることはできない。生活文化や学歴社会など子どもの生活や保護者のニーズは保育園の実施には欠かせない考慮事項だ。

日本からの新しい教育手法がどのようにエジプトで理解され，導入実施されていくのか，特にこれまで学

びに重きを置いていたエジプトの保育現場が「遊びを通した学び」について「遊び」をどう捉え，どのように実践していくのかを今後調査するとともに，就学前教育についての「遊び」を途上国に技術移転する際に，どのような方法があり，重要なことは何かなどのヒントを得るための調査をしていきたい。

参考・引用文献

- JETRO HP: エジプト概況 一般事項（最終閲覧 2019年11月29日）<https://www.jetro.go.jp/world/africa/eg/basic-01.html>
- 国際協力機構（2017）「JICA 事業事前評価表」
https://www2.jica.go.jp/ja/evaluation/pdf/2016_1600483_1_s.pdf（最終閲覧 2019年12月3日）
- 白石崇人（2013年）『幼児教育とは何か』社会評論社
- 西村まゆ（2008）平成19年度4次隊「ボランティア活動報告書」JICA 図書館蔵書
- 持田彩（2005）平成19年度2次隊「ボランティア活動報告書」JICA 図書館蔵書
- 木村恭子（2010）平成21年度4次隊「ボランティア活動報告書」JICA 図書館蔵書
- 河野聡子（2010）平成21年度3次隊「ボランティア活動報告書」JICA 図書館蔵書
- 鈴木典子（2008）平成20年度1次隊「ボランティア報告書」JICA 図書館蔵書
- Egypt Social Solidarity（2017）「Quality Standards for Nurseries」